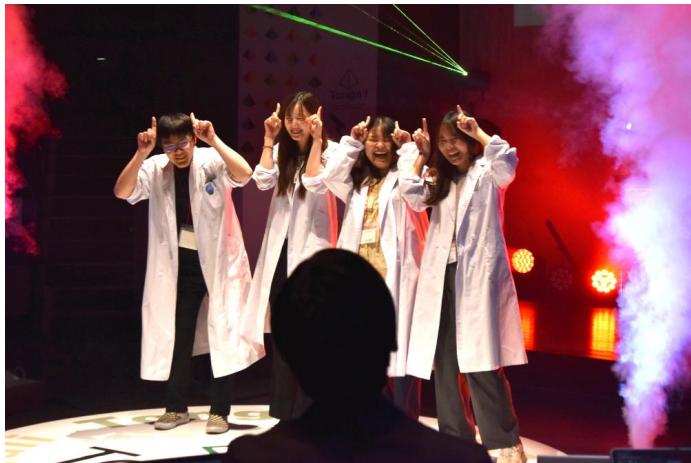


学生活動等



- ・「Tongaliビジネスプランコンテスト2024」で2つの学生チームが入賞
- ・飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦！「東海クライマックスシリーズ2024」を開催
- ・岐阜大学フォーミュラレーシングチームが「学生フォーミュラ日本大会2024」で総合5位を獲得
- ・AIアイデア作品を制作した学生がAIスペシャリストの認定資格を取得
- ・学生ボランティア団体「ゆにいんくる」が「医療的ケア児者を応援する市区町村長ネットワーク」から受賞
- ・「Tongaliアイデアピッチコンテスト2024」で2つの学生チームが入賞
- ・土木デザイン設計競技イベント「景観開花。」において学生グループが優秀賞を受賞
- ・「考え方SDGs！エコ活動啓発ポスター・川柳コンクール」を開催
- ・本学学生チームがVR作品制作大会「IVRC2024」で総合優勝
- ・岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施
- ・学生が企画・運営する企業展「業界研究セミナー」を開催
- ・岐阜大学基金「バロー・V ドラッグ海外研修奨学金 助成事業」派遣学生（2名）による報告会を開催

「Tongaliビジネスプランコンテスト2024」で 2つの学生チームが入賞

【概要】

令和6年6月15日（土）に開催された学生発ベンチャーの創出と起業家育成を目的としたコンテスト「Tongaliビジネスプランコンテスト2024」において、本学学生チームが優れた成績を収めました。

今年は予選で過去最多の65チームが参加し、その予選・準決勝を勝ち抜いた16チームが競い合う決勝の舞台で、本学から参加した2チームが見事に入賞（5位以内）を果たしました。複数チームが入賞を果たすのは本学にとって3年連続の快挙です。

7月4日（木）には、入賞した2チームの学生が学長室を訪問し、受賞の報告を行いました。入賞者からはコンテストで披露したビジネスプランの報告があり、優秀賞チーム「GenomicGarden」代表の齊藤海星さんは、「ダメ元で挑戦したコンテストでしたが、優秀賞・海外チャレンジ賞を受賞することができうれしく思います。私たちのアイディアが評価され、自信につながりましたし、今後もこの経験を活かして、更に活動を展開していきたいです」と語りました。また、5位チーム「乳牛を救いたい」代表の山本真菜さんは、「乳牛を救いたいという思いで、チーム一丸となって努力した結果が報われてうれしいです。この経験を通じて多くのことを学びましたし、今後も挑戦を続けていきたいです」と述べ、それぞれ入賞の喜びや今後の抱負を吉田学長に伝えました。

吉田学長からは、「今回の入賞は皆さんの努力と創造力の賜物です。素晴らしい成果を挙げられたこと、また岐阜大学が3年連続で複数チーム入賞を果たしたこと大変うれしく思います。これからも常に学び、自分たちの可能性を信じて何事にも挑戦してください。皆さんの成長と成功を応援しています」と激励がありました。

本学は今後も学生たちの挑戦と成長を全力でサポートし、「学び、究め、貢献する」人材の輩出に努めてまいります。

入賞した学生チームのメンバーは以下のとおりです。

■チーム「GenomicGarden」

テーマ：ミニブタを用いたPharm Technology

代表：応用生物科学部共同獣医学科4年 齊藤 海星

メンバー：高等研究院 高須 正規准教授、杷野 一輝研究員

受賞名：Tongali賞 優秀賞（2位）、海外チャレンジ賞

■チーム「乳牛を救いたい」

テーマ：いちごで飛騨牛！？

代表：自然科学技術研究科生命科学・化学専攻1年 山本 真菜

メンバー：自然科学技術研究科生命科学・化学専攻1年 山本 慶香、寺田 昂太郎、近間 琴海

受賞名：Tongali賞 5位、OKB賞

～学生活動等～

「Tongaliビジネスプランコンテスト2024」で2つの学生チームが入賞



コンテスト当日の様子：斎藤さんによる発表の様子



コンテスト当日の様子：
チーム「乳牛を救いたい」入場シーン



吉田学長への入賞報告の様子



記念写真

(奥左から)大藪副学長、吉田学長、上原教授
(手前左から)斎藤さん、山本真菜さん、山本慶香さん、
近間さん、寺田さん

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/7/5	岐阜	中高生・学生ビジネスプランコンテスト 岐阜大生2チーム 全国入賞 ～応用生物科学部共同獣医学科4年 斎藤海星さん、 自然科学技術研究科1年 山本真菜さん、山本慶香さん、 寺田昂太郎さん、近間琴海さん～
2024/7/24	中日	岐阜大チーム2位、5位 トンガリビジネスプランコン 臓器移植用のミニブタ生産推進／イチゴのはで飛騨牛の受精率 向上 ～応用生物科学部共同獣医学科4年 斎藤海星さん、 自然科学技術研究科1年 山下真菜さん、山本慶香さん、 寺田昂太郎さん、近間琴海さん～

飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦！ 「東海クライマックスシリーズ2024」を開催

【概要】

岐阜大学 航空宇宙生産技術開発センターは、9月20日(金)に岐阜メモリアルセンターにおいて、飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦「東海クライマックスシリーズ2024」を開催しました。

本大会は、岐阜大学 工学部所属の4年生、名古屋大学 工学部所属の3年生を対象とした、飛行ロボット(自律滑空機)を設計・製作する授業より選抜された機体が参加し、どの機体が最も優れた飛行を見せるかを競いました。

これらの様子は東海国立大学機構の松尾清一機構長、吉田和弘岐阜大学学長、今年度より顧問に就任された森脇久隆氏(前岐阜大学学長)をはじめとする関係者、および一般観覧者96名の方が会場にて観覧され、オンラインでは後日配信で59名(9月26日時点)の方が視聴される予定です。

今大会は、岐阜大学2チーム、名古屋大学2チームの合計4チーム12名の学生により競技が行われ、各チーム3回のフライトを行った中で発射台(離陸台)からの距離と、中心線からの角度、壁まで到達した場合、到達点の高さを独自の計算式に当てはめて計算し、その総合得点をチーム記録とするルールで行いました。また、コース上に初めて業務用送風機が登場し外乱を発生させるなど、今までより難易度の高い競技となりました。

競技会は名古屋大学Bチームが総合得点37点で優勝し、3回のフライトとも35メートルを超える素晴らしい飛行を見せました。また、川崎重工業株式会社の有志チームと岐阜大学TAチームによるエキシビションマッチも行われたほか、各学生チーム機体のデザイン投票を来場者全員にご参加いただき、最も投票の多かったチームにデザイン賞を授与する等、今までにない盛り上がりを見せました。

競技後に大反省会として、それぞれの飛行ロボットのフライト動画を見ながら反省点を述べるとともに、他チームからの質問に答えるなど、普段交わることが少ないそれぞれの大学の学生間での交流が生まれ、貴重な体験となりました。

最後に、東京大学名誉教授、鈴木真二先生から、「航空機開発の最新動向：脱炭素化と次世代エアモビリティー」と題して特別講演をいただき、学生にとってまたとない貴重なお話を伺う機会となりました。

次回以降も盛大なイベントとなるように、これから企画を進めていく予定としています。



競技中の様子（1）



競技中の様子（2）

～学生活動等～

飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦！ 「東海クライマックスシリーズ2024」を開催



大反省会で両大学の学生が交流する様子（1）



大反省会で両大学の学生が交流する様子（2）



最優秀賞（名大Bチーム）



優秀賞（岐大Bチーム）



特別講演を行う 鈴木 真二先生



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/9/21	岐阜	飛行ロボ「東海シリーズ」 岐阜大生と名大生、距離競う ～航空宇宙生産技術開発センター、岐阜大Aチーム 池田凜さん～
2024/9/22	中日	学生の飛行機 岐阜大VS名大 岐阜で飛行距離競う大会 ～航空宇宙生産技術開発センター、岐阜大Aチーム 池田凜さん～

岐阜大学フォーミュラレーシングチームが 「学生フォーミュラ日本大会2024」で総合5位を獲得

【概要】

令和6年9月3日（火）～14日（土）にオンライン及びAichi Sky Expo（愛知県国際展示場）で行われた「学生フォーミュラ日本大会2024」において、本学学生チームの岐阜大学フォーミュラレーシングが2年連続の入賞となる総合5位を獲得しました。本大会は、学生が自ら構想・設計・製作した車両により、ものづくりの総合力を競う大会で、国内外から参加した78のチームが激しい競争を繰り広げました。

10月8日（火）には、学生3人と指導教員の菊地准教授が吉田学長を訪問し、受賞の報告を行いました。学生を代表して自然科学技術研究科1年の高木 寛登（たかぎ かくと）さんは「総合5位という好成績を収められたことは嬉しいが、もっと上を目指せた部分もあった。特に種目別では2種目で2位を獲得したが、1位とは僅差であり、悔しさも感じた。来年は今年の課題をしっかりと分析し、より上位を目指したい」と話しました。

吉田学長からは「タイムを競うだけでなく、ものづくりの総合力を競う大会で総合5位という結果はすばらしい。生産技術は岐阜大学の強みの1つであり、大会を通じて得られた技術や経験をこれからも受け継いでいって欲しい。卒業後も大学との関わりを持ち続け、大学の力になって欲しい」と激励と期待の言葉が述べられました。岐阜大学フォーミュラレーシングのより一層の活躍に期待が寄せられます。



大会での集合写真



学長への報告の様子



記念写真（左から）菊地准教授、宮崎さん、
安藤さん、高木さん、吉田学長、大藪副学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/10/11	岐阜	岐阜大チーム総合5位 レース車設計製作「学生フォーミュラ」 学長に報告 旋回、走行性能で検討 ～学生サークル「岐阜大フォーミュラレーシング」自然科学技術研究科2年 安藤丈流さん、同1年 高木寛登さん、工学部機械工学科3年 宮崎凌太さん、吉田和弘 学長～

AIアイデア作品を制作した学生が AIスペシャリストの認定資格を取得

【概要】

岐阜大学工学部情報コースの3年生約70人を対象とした必修科目「情報工学実験Ⅲ」の一環で、一部のチーム学生がNVIDIA社の提供するAI認定資格「Jetson AI Specialist」を取得しました。この資格は、大手半導体メーカーであるNVIDIA社が提供するAI技術の実践力を証明する認定資格です。

「情報工学実験Ⅲ」では、実践的なAI（人工知能）教育の一環として、2023年度にAIを備えた小型コンピューターを受講学生一人につき一台導入し、画像処理やロボット制御、音声認識など、さまざまなAI技術の開発に取り組んでいます。学生たちはAIの専門知識を深めつつ、チームごとにAIを活用したアイデア作品を設計・実装し、成果発表を行います。そして、最終的には認定資格の取得を目指します。また、本科目は文部科学省の令和6年版科学技術・イノベーション白書において、特色あるAI関連研究開発の取組事例として紹介されました。

＜認定資格取得の対象となったAIアイデア作品＞

「スマートゴミ箱～ゴミを吐き出すゴミ箱～」

林隼人、立岩侑大、玉城洵弥

「擬似ネコチャン～お前の本性を見抜く訓練用ロボット～」

高木美吹、満仲香苗、後藤志織

「視覚障害者横断補助システムWith Jetson Nano」

Seong Minsik、舟橋奈穂、嶋津幸孝

学生たちは「AIをゼロから設計・実装する経験ができ、実践的なスキルを磨くことができた」「自分たちが考えたAIアイデアが実際に動作する瞬間は感動的であり、AIの可能性をさらに感じた」などの感想が寄せられました。また、本科目の指導教員である工学部の加藤邦人教授は「日本国内でこの認定資格を認定者は非常に少なく、本学の学生たちが認定資格を取得したことは快挙です。今後もAIのスペシャリストを目指して学んでほしい」とコメントしました。

岐阜大学は引き続き、実践的なAI教育に力を注ぎ、地域や実社会で即戦力として活躍できる人材育成を推進していきます。



記念写真



AIアイデア作品の一つ「疑似ネコチャン」

学生ボランティア団体「ゆにいんくる」が 「医療的ケア児者を応援する市区町村長ネットワーク」から受賞

【概要】

岐阜大学の学生ボランティア団体「ゆにいんくる」が、「医療的ケア児者を応援する市区町村長ネットワーク」主催の「第1回スペシャルニーズ応援アワード」※において表彰され、令和6年11月26日（火）に吉田学長へ受賞の喜びを報告しました。

「ゆにいんくる」は、医療的ケア児者やその家族が外出先で困らない社会を目指し、ユニバーサルシート（多目的トイレに設置された大人用ベッド）の設置状況を調査し、「ユニバーサルシートマップ」を制作しました。このマップは、紙の地図とアプリ版の2種類を制作し、幅広い世代が利用しやすい工夫がなされています。また、利用者がシートの場所や環境を事前にイメージできるよう、詳細な情報も掲載されている点などが高く評価されました。

活動の中で、昨年「ゆにいんくる」を立ち上げた地域科学部地域文化学科4年の加藤みのりさんは、「ユニバーサルシートの認知度が低いことから、調査ではシートの説明から始める必要があり予想以上に大変でしたが、少しずつ社会の理解が広がっていると感じます」と振り返りました。また、代表を引き継いだ医学部看護学科2年の増田遙さんは、「他県ではユニバーサルシートの設置義務化が条例で定められている地域もあります。これらを参考にしながら、岐阜を中心に活動をさらに発展させたい」と今後の展望を語りました。

吉田学長は、「今回の受賞は、地域社会に貢献し、やさしいまちづくりに向けて取り組んでいるみなさんの活動が高く評価された証です。引き続き、地元岐阜からユニバーサルシートの普及が広まるような活動に期待をしています。そして、岐阜大学の保健管理センターでは、南フロリダ大学と協定を結び、公衆衛生などの取り組みで幅広く連携しているので、そのような機会を活用して将来は海外にも活動を広げていってほしい」と激励しました。

「ゆにいんくる」の活動は、誰もが安心して外出できる社会の実現に向けた大学生の行動力を示す好例であり、今後さらに広がりを見せることが期待されます。

※第1回スペシャルニーズ応援アワード：
飛騨市長が会長を務める
「医療的ケア児者を応援する市区町村長ネットワーク」が開催する表彰制度で、医療的ケア児者を支援する取り組みを称えるために創設されました。本年度が第1回目の開催であり、全国の優れた支援活動27件の取り組みの中から4件が表彰されました。



ユニバーサルシートマップ

案内チラシ

～学生活動等～

学生ボランティア団体「ゆにいんくる」が 「医療的ケア児を応援する市区町村長ネットワーク」から受賞



昨年「ゆにいんくる」を立ち上げた
加藤さんによる報告の様子



代表を引き継いだ増田さんによる報告の様子



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/12/7	岐阜	岐阜大の学生奉仕団体「ゆにいんくる」 医療ケア児支援全国表彰 介助用大型ベッド設置の地図発行 ～学生ボランティア団体「ゆにいんくる」発起人 地域科学部4年 加藤みのりさん～
2024/12/28	岐阜	医療的ケア児支援 表彰2団体が報告 岐阜市役所 ～学生ボランティア団体「ゆにいんくる」～

「Tongaliアイデアピッチコンテスト2024」で 2つの学生チームが入賞

【概要】

令和6年11月9日（土）に開催された「Tongaliアイデアピッチコンテスト2024」において、本学から出場した2つの学生チームが優れた成績を収めました。

「Tongaliアイデアピッチコンテスト」は、大学生・中高生などが社会課題や自身の挑戦したいテーマに基づく斬新なアイデアを発表し、その実現を目指すための起業家精神や挑戦意欲を育むことを目的として開催されています。今年は過去最多の184チームがエントリーし、予選・準決勝を勝ち抜いた計15チームが決勝の舞台でプレゼンテーションを行いました。

本学からは、2つの学生チームが決勝に出場し、それぞれのアイデアが高い評価を受け、下記のとおり受賞しました。

チーム「GIVELOVE」

テーマ：「GIVELOVE ～困ったシニアとその家族と、大学生をつなぐ見守り・お手伝いサービスで、温かなつながりを～」

代表：北川愛子（地域科学部2年・起業部所属）

受賞：Tongali賞3位、海外チャレンジ賞、名古屋銀行賞、名鉄賞

チーム「Hundale(ハンデール)」

テーマ：「教員の負担を減らし教育をより良いものに」

代表：船曳巧馬（教育学部1年・起業部所属）

受賞：野村證券賞

12月5日（木）には、受賞した両チームの代表学生が学長室を訪れ、コンテストで披露したアイデアの詳細や成果を吉田学長へ報告し、今後の展望について語りました。

地域科学部2年の北川さんは、「介護施設でのボランティア活動を通じて、多くのシニアの方々が社会的に孤立し孤独を感じている現状を目の当たりにし、シニアと地域や学生をつなぐ仕組みとしてGIVELOVEを提案しました。今回の受賞を励みに、来年には起業をして本格的に課題解決へ向けて活動していきます」と語りました。また、教育学部1年の船曳さんは、「オーストラリアへの留学を通じて、現地の教員は子どもたちと向き合う時間を多く確保している一方で、日本の教員は業務が多岐にわたり、子どもと接する時間が限られてしまっていることを感じました。そのため、教員の負担を軽減して子どもたちと向き合う時間を増やす仕組みを考案しました。今後は日本の教育現場での実習などを経験して、より良い教育を行うための解決策などを考えていただきたいです」と語りました。

吉田学長は、「起業部の先輩たちが築いてきた実績や姿勢から学び、さらに挑戦を続けられているみなさんを頼もしく思います。これからも新しいことに挑戦し続け、社会をより良くするアイデアの実現に向けてがんばってください」と激励しました。

本学は今後も、学生たちのアイデア実現を支援し、地域や他大学との連携を強化して、新たなイノベーションの創出を目指してまいります。

「Tongaliアイデアピッチコンテスト2024」で
2つの学生チームが入賞

※Tongali(Tokai Network for Global Leading Innovation)：
東海地区を中心とした大学・高専が連携して、学生たちの起業家精神を育むことを目的に多様な支援やイベントを提供する起業家育成プロジェクトです。本コンテストは、その一環として、学生が社会課題の解決に向けたアイデアを発表し、実現への第一歩を踏み出す場として開催されています。



受賞報告の様子



記念写真
(左奥から) 大藪副学長、吉田学長、上原教授
(左前から) 北川さん、船曳さん

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/11/12	中日	大学生ら 起業アイデア競う 西区でコンテスト 15チーム参加
2024/12/8	中日	岐阜大生 起業アイデアで受賞 ボランティア、研修体験から～地域科学部2年 北川愛子さん「GIVELOVE」、教育学部1年 船曳巧馬さん「Hundale」～
2024/12/12	岐阜	岐阜大起業部 2人入賞 孤立感じる高齢者の悩み解決事業／教員の事務作業受託処理サービス～地域科学部2年 北川愛子さん「GIVELOVE」、教育学部1年 船曳巧馬さん「Hundale」～
2024/12/31	朝日	若者ひらめき 新事業を開拓 アイデアピッチコンテスト岐阜大の2学生入賞～起業部 地域科学部2年 北川愛子さん、教育学部1年 船曳巧馬さん～

土木デザイン設計競技イベント「景観開花。」において 学生グループが優秀賞を受賞

【概要】

岐阜大学の都市・景観研究室の学生グループが、12月1日（日）に仙台市で開催された土木デザイン設計競技イベント「景観開花。」において、第2位となる優秀賞を受賞しました。このイベントは、土木デザインに関心のある若者がその力を試せる場を提供するとともに、多くの人々へ向けて土木デザインの可能性を示すための設計競技イベントです。

今年度の「景観開花。」は、「Oregional Transport Hub～選ばれる街に求められる交通結節点をデザインせよ～」という設計テーマのもと開催されました。全国から32グループがエントリーし、ポスター作品による一次審査を通過した5グループが公開最終審査会でプレゼンテーションを行いました。本学学生グループは、大垣市の駅前広場を対象にしたデザイン提案作品「垣をほどく」を発表し、歴史的背景や地域特性を活かした新たな都市空間の提案を行い、高い評価を得ました。

本作品「垣をほどく」は、歴史的に水運が地域文化を支えてきた大垣市に焦点を当て、交通結節点である大垣駅南口駅前を対象地としました。作品のコンセプトを「水運や水辺の風景を創造することで、垣をほどく」とし、複雑に絡まる交通導線とその境界（垣）を整理する（解く）ことで新たな空間を創造し、水都大垣ならではの水運による移動体験を提供するなど、地域資源を最大限に活用しながら多様な活動を促す都市空間の再生を目指しました。

学生グループを代表して、大学院自然科学技术研究科2年の駒月さんは、「対象地選定の段階からグループメンバーとの議論が白熱して多くの意見が交錯しましたが、最終的にはみんなで協力して良い作品にすすることができました。優秀賞を受賞できてうれしいです」と語りました。また、同1年山田さんは、「大垣駅南口駅前エリアを対象地と決めた後には、船着き場・公園・ロータリーといった広い空間の利活用について、具体的なデザイン案を練り上げてみんなの意見や想いを詰め込んだ作品を形にすすことができてうれしかったです」と語り、チームでの協力が受賞につながったことをそれぞれ振り返りました。さらに、今後学生グループは大垣市に本作品を提案する予定です。

岐阜大学は、これからも地域社会と連携し、学生の挑戦を後押ししていきます。

提案作品：垣をほどく

学生グループ：

大学院自然科学技术研究科 2年 菱田佑樹、駒月健太

大学院自然科学技术研究科 1年 宮川朗、青木佑太朗、山田蓮人

社会システム経営学環 4年 船田颯太

指導教員：社会システム経営学環 教授 出村嘉史（都市・景観研究室）

土木デザイン設計競技イベント「景観開花。」において
学生グループが優秀賞を受賞



記念写真



「垣をほどく」ポスター作品

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/1/26	中日	岐阜大生グループ優秀賞 都市計画デザイン競うコンテスト 大垣駅前に水辺の風景を創造 ～都市・景観研究室（出村嘉史教授）、自然科学技術研究科1年 山田蓮人さん～
2025/3/25	岐阜	土木デザインの全国大会 岐阜大グループ優秀賞 「水運と 大垣駅前」提案 ～出村嘉史教授、大学院自然科学技術研究 科2年 駒月健太さん、1年 山田蓮人さん～

「考え方SDGs！エコ活動啓発ポスター・川柳コンクール」を開催

【概要】

本学は、教育学部附属小中学校の児童生徒を対象に「考え方SDGs！エコ活動啓発ポスター・川柳コンクール」を十六銀行と共に開催しました。

このコンクールは、十六銀行と締結した「環境保全における連携に関する覚書」の一環として、SDGsについて考え方、省エネ、環境美化運動やごみ減量など身近な視点から、エコ活動を啓発する目的で実施したものです。

ポスター作品の募集については今年で14回目を迎え、今回新たな試みとして川柳部門を設けて作品募集を行いました。厳正な審査の結果、応募作品からポスター部門、川柳部門ごとに最優秀賞、優秀賞、十六フィナンシャルグループ賞を決定しました。

12月6日（金）には、受賞作品の表彰式を行いました。表彰式では、受賞した児童生徒一人ひとりに吉田学長より表彰状が、十六銀行の所取締役専務執行役員より副賞が手渡されました。吉田学長は「今年からは川柳の作品も加わりました。どの作品も一つひとつみなさんの思いが込められていてすばらしい作品でした。今回の作品に込めた思いを、普段の活動でも心がけ、また、その活動をまわりの人々にも広めてほしい」と述べ、所取締役専務執行役員は「多様性を持ったみなさんの視野視点から生まれたインパクトのある作品でした。環境問題に関して高い意識をもって、継続していくことが大切」と述べました。これを受け、藤井附属小中学校長は「児童生徒たちの環境を大切にしたいという願いと、なんとか表したいという工夫が作品にあらわれている。この取り組みを通して、児童生徒の学びの機会を与えていただいた」と述べました。

また、ポスター部門で最優秀賞を受賞した1年生の樋上澄怜さんは「この作品に電気の無駄遣いをしないでというメッセージを込めた」、川柳部門で最優秀賞を受賞した6年生の岩田悠誠さんは「自分でも気に入った川柳で選ばれて嬉しい」と思いを語りました。

受賞作品はこれまで本学の図書館に展示され、地域の方も含め多くの方にご覧いただきました。今後は、令和7年1月8日

（水）～24日（金）にかけて十六銀行加納支店にて展示され、令和7年1月27日

（月）～2月7日（金）には十六銀行岐南支店で展示予定です。

本活動が環境について考えるきっかけとなり、エコ活動が広がっていくことを期待しています。



受賞した児童生徒との記念撮影

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/12/14	岐阜	付属小中生6人入賞 岐阜大と十六銀「エコ啓発ポスター・川柳」～教育学部附属小中学校 1年 樋上澄怜さん、6年 岩田悠誠さん、吉田和弘 学長～

本学学生チームがVR作品制作大会 「IVRC2024」で総合優勝

【概要】

岐阜大学の学生チームが、VR作品制作大会「IVRC2024」において、VR作品「中継(カメラ)を止めるな！～究極のフォーミュラース中継体験～」を制作し、岐阜県勢として初めて総合優勝を果たしました。さらに、世界的VRイベント「Laval Virtual 2025」（2025年4月、フランス・ラヴァル開催）への招待権を兼ねた「Laval Virtual Prize」も同時受賞し、世界中から最先端のVR作品が集結する国際舞台への切符を手にしました。

「IVRC2024」には86件の企画応募があり、その中から21作品がSEED STAGE（予選）に進出し、最終的に11作品が決勝の舞台であるLEAP STAGEで競い合い、本学学生チームがその頂点に立ちました。

本作品は、フォーミュラースの中継カメラマンを疑似体験できるVR作品です。カメラマンが時速300km以上で疾走するマシンを追う際に感じる風や音を、送風機や立体音響を駆使してリアルに再現し、実寸大のカメラデバイスを操作することで本格的な中継体験を楽しめる点などが高く評価されました。

12月19日（木）には、学生チームが学長室に訪れ、作品制作に込めた思いや受賞の喜びを報告してくれました。チーム代表の阪井さんは「作品制作の過程では大変なことがたくさんありましたが、チームメンバーと協力して実際にサーキット場へ取材に伺うなど、F1の世界をリアルに再現することにこだわりました。また、カメラデバイスの重さや操作感、立体音響、送風機、振動デバイスなどを駆使して細部までこだわった作品に仕上げ、優勝することができてうれしいです」と語ってくれました。

岐阜大学は、学生たちの挑戦を支援し、さらなる活躍を期待するとともに、社会に新たな価値を創造する人材の育成に努めてまいります。

※IVRC(Interverse Virtual Reality Challenge) :

学生や若いクリエイターたちがインタラクティブな作品を企画・制作し、その成果を競い合うコンテストです。日本バーチャルリアリティ学会が主催する本大会は1993年から毎年開催され、VR/AR技術の革新と次世代の創造力を育む場として注目されています。

受賞名：総合優勝、Laval Virtual Prize

チーム：モータースポーツの魅力つたえ隊

大学院自然科学技術研究科 2年 阪井 啓紀、小木曾 直輝、野倉 大輝

大学院自然科学技術研究科 1年 早崎 雅人

工学部 電気電子・情報工学科 情報コース 3年 伊東 蒼真

工学部 電気電子・情報工学科 機械コース 3年 高木 祐輔

工学部 電気電子・情報工学科 情報コース 1年 水野 聰太、石井 智己

本学学生チームがVR作品制作大会「IVRC2024」で総合優勝



受賞報告する阪井さん



VR作品について解説する様子



記念写真



VR作品体験の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/1/4	岐阜	岐阜大チーム総合V F1カメラマン疑似体験できるVR作品 東京でコンテスト 風やエンジン音、忠実に～自然科学技術研究科2年 阪井啓紀さん、小木曽直輝さんら、吉田和弘学長～

岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施

【概要】

令和7年1月21日（火）に岐阜大学基金学長特別表彰の贈呈式を実施しました。

この制度は、令和5年10月に岐阜大学基金を活用して新たに設けられた表彰制度で、本学の教職員および学生等を対象に、本学の名譽を著しく高めたと認められる個人や団体に対して学長が表彰するものです。

この度、岐阜大学学生チーム「モータースポーツの魅力つたえ隊」は、フォーミュラレース中継のカメラマンを疑似体験できるVR作品を制作し、昨年10月26日～27日に開催されたVR作品制作大会「*IVRC2024」において、岐阜県勢として初めて総合優勝を果たすとともに、令和7年4月にフランスで開催される世界的VRイベント

「Laval Virtual 2025」への招待権を兼ねた「Laval Virtual Prize」も同時受賞しました。本件は新聞にも大きく掲載され、本学の名譽を著しく高めた事由と認められることから、今回の贈呈となりました。

贈呈式では、学長から「Laval Virtualへは本学が3年連続の参加となり、是非ともいい報告を待っています。」と激励され、表彰状とともに、副賞の活動支援金が授与されました。学生からは「この作品は多くの人のご支援により完成することができたもので、大学からこのような賞をいただけることを嬉しく思います。」応えられました。

本学は、本制度が教職員及び学生のモチベーション・アップに少しでも繋がることを期待しています。

* IVRC(Interverse Virtual Reality Challenge) :

学生や若いクリエイターたちがインタラクティブな作品を企画・制作し、その成果を競い合うコンテストです。日本バーチャルリアリティ学会が主催する本大会は1993年から毎年開催され、VR/AR技術の革新と次世代の創造力を育む場として注目されています。



贈呈式の様子



集合写真

学生が企画・運営する企業展 「業界研究セミナー」を開催

【概要】

12月14日（土）・15日（日）に、第23回岐阜大学学生企業展「業界研究セミナー」を開催しました。本企業展は毎年開催されており、学部3年生の学生有志が中心となって大学公認の実行委員会を組織し、企画・運営を行う学内最大規模の企業展です。

本企業展には約160社の企業が出展し、就職活動中の学部3年生・修士1年生を中心に、延べ約500名の学生が参加しました。参加学生からは「様々な企業と直接話ができるのはとても実りある経験だと感じた」「知らなかった会社に出会えた」などの感想が寄せられました。

2月5日（水）には、実行委員長の西内智哉さん（工学部3年生）、副実行委員長の栗木祐和さん（同）、瀬尾直生さん（同）が学長へ開催報告を行いました。西内さんは、出展企業や業務委託会社との連絡調整といった大きな責任を担いながら、実行委員7名とともに議論を重ね、関係者の協力を得て無事に開催できたことへの達成感を語りました。また、今年度の広報活動では、食堂に三角POPを設置するなど多くの学生の目に触れるような工夫によって学生の参加が増加したことを報告しました。

吉田学長からは、学生の自主的な取り組みにより企業展という大規模なイベントを成功させたことへの労いの言葉がありました。また、今回得たノウハウや課題を後輩に引き継ぐことで、さらなる工夫や戦略を生み出し、次年度の企業展をより発展させてほしいとの激励がありました。

本学は今後も学生の自主的な活動を応援し、就職活動をより一層支援していきます。



学生企業展の様子



学長報告
(前列左から、瀬尾さん、栗木さん、吉田学長、西内さん)

岐阜大学基金「バロー・V ドラッグ海外研修奨学金助成事業」派遣学生（2名）による報告会を開催

【概要】

本学は、平成26年度から株式会社バロー・ホールディングスおよび中部薬品株式会社からのご寄付により「バロー・V ドラッグ海外研修奨学金助成事業」を行っています。本奨学金は、本学の大学院生が海外の大学や研究機関で単位を取得したり、専門の研究を支援することを目的としています。

令和7年3月7日（金）に本奨学金を受給して派遣された、工学研究科3年の馬場梨瑛さんと、自然科学技術研究科1年の長崎弥生さんがバロー・ホールディングス人材開発センター嫩葉舎（どんようしゃ）において成果報告を行いました。

馬場さんはインド工科大学へ約11ヶ月間留学し、「腐食減肉部のロボットアームを用いたWAAM技術による補修法の開発」をテーマに、金属3Dプリンティング技術を活用し、溶接きずを最小限に抑える補修方法について研究しました。

長崎さんはニュージーランドのマッセイ大学に約3ヶ月間留学し、「コオロギパウダーの消化性試験評価」をテーマに研究を行いました。研究では、コオロギパウダーの消化性を評価するための実験系を確立し、たんぱく質含量の測定や模擬消化試験を実施しました。

両名とも、留学中の異文化交流や奨学金の重要性についても報告し、奨学金が学業に専念するための大きな支えになったことについて、田代正美バロー・ホールディングス代表取締役会長兼CEOに感謝の意を述べました。

岐阜大学基金では、今後も学生の様々な挑戦をサポートする取組を続けていきます。



報告会の様子



集合写真